

大阪大学社会経済研究所**第 22 回行動経済学研究センターシンポジウム『科学としての実験社会科学』****8/22(金)18:30~20:30 @Zoom【オンライン開催】**

科学としての実験社会科学

第22回行動経済学研究センターシンポジウム

大阪大学 社会経済研究所 × **APIR** 一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH**2025年 8月22日 (金)****18:30-20:30**

大阪大学社会経済研究所は、8月22日(金)18:30~20:30にオンラインにて「**第22回行動経済学研究センターシンポジウム**」を開催します。本シンポジウムは、従来の経済学とは異なる行動経済学研究の知見を社会に還元すべく、大阪大学社会経済研究所が開催している**一般参加者向けのイベント**です。

今年のテーマは、「**科学としての実験社会科学**」です。

ひとの意思決定や社会的行動、情動、認知といった心の働きを理解するうえで、社会科学における実験的アプローチは重要な役割を果たしてきました。一方で、こうした実験研究の再現可能性や透明性をめぐる議論は、心理学・経済学をはじめとする諸分野で近年ますます注目を集めています。

本シンポジウムでは、社会科学における実験研究の信頼性をめぐる最新の動向を取り上げます。社会科学における過去の研究知見の再現可能性に対する議論および近年の取り組みなどについて、心理学の視点、および経済学の視点から概説します。さらに、両分野の知見を踏まえた分野横断的な議論を通じて、社会科学におけるより信頼性の高い実験研究のあり方を模索します。

多くの皆様にご参加いただきたいと存じますので、報道機関の皆様におかれましては、本イベントの積極的なご周知とご取材を宜しくお願いいたします。

プログラム [※登壇者・司会者プロフィールは p.3 をご確認ください]

18:30-18:35 開会のご挨拶

18:35-19:15 (1) 三船 恒裕「心理学からみた実験社会科学」

19:15-19:55 (2) 今井 泰佑「経済学からみた実験社会科学」

19:55-20:10 (3) 登壇者間での質疑応答

20:10-20:25 フロアからの質疑応答

20:25-20:30 閉会のご挨拶

司会: 室岡 健志

開催形態: 「Zoom(ウェビナー)」を用いたオンライン配信で開催します。(参加無料)

申込開始: 2025 年 7 月 22 日(火)12:00 から。但し、定員に達し次第、締切ります。

参加方法: 大阪大学社会経済研究所 WEB サイトよりオンラインでお申込み下さい。

<http://osku.jp/x0338>



備考: Zoom の機能を使って、参加者からの質問にもライブでお答えする予定です。

時間の関係で全てのご質問にはお答えできませんがご了承ください。

大阪大学 社会経済研究所について

大阪大学社会経済研究所は、世界的トップレベルの研究を行い、客観的な指標である国際学術誌への論文掲載数や被引用数などで、国内における他の経済・社会科学系附置研究所と比較して一人あたりで数倍の成果をあげるなど、卓越した研究レベルを誇っています。

具体的な研究テーマとしては、経済成長および景気循環に関する研究、租税制度・社会保障制度・入札制度・環境規制などの制度設計に関する研究、企業・消費者・政府行動に関する研究などがあります。現在では、不況、不良債権、社会保障、失業、消費、資産価格、環境問題、法と経済、入札制度といった現代社会において最も重要度の高い研究テーマを分析しています。

登壇者プロフィール



三船 恒裕 Nobuhiro Mifune

高知工科大学経済・マネジメント学群 教授

講演タイトル：「心理学からみた実験社会科学」

講演要旨：その創成期から、実験手法を用いて科学を目指してきた社会科学の一分野が心理学である。しかし、2010 年前後より、心理学の科学性に疑問を持たせるようなことが相次いで報告された。そのひとつが再現性問題である。科学研究であるために必要な再現性を担保するにはどうすればよいのか。本講演では心理学における近年の再現性問題への取り組みを紹介する。

プロフィール：北海道出身。東洋大学社会学部卒業。北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士号（文学）。日本学術振興会特別研究員、高知工科大学マネジメント学部講師などを経て 2022 年より現職。専門は社会心理学、進化心理学。著書に『広がる！進化心理学』（朝倉書店、2023 年、分担執筆）など。小学校 1 年生より剣道を続けています。今は所属大学剣道部の顧問もしており、月に数回程度、大学生と一緒に稽古しています。五段をとるために練習する日々です。



今井 泰佑 Taisuke Imai

大阪大学社会経済研究所 教授

講演タイトル：「経済学からみた実験社会科学」

講演要旨：実験経済学は、統制された環境下で人間の意思決定や市場・制度のメカニズムを観察することで、社会科学における科学的アプローチの深化に貢献してきた。他方、心理学を発端とする再現性問題は、実験結果の信頼性や一般化可能性といった観点から、実験経済学にも重要な影響を及ぼしている。本講演では、実験経済学の特徴と心理学のアプローチとの相違点・共通点を概観しつつ、再現性問題への対応の現状と課題、そして今後の展望について議論する。

プロフィール：大阪府出身。東京大学部経済学部卒業。米国カリフォルニア工科大学人文社会科学科博士課程修了。博士（社会科学）。同大学 Postdoctoral Scholar、独ミュンヘン大学 Assistant Professor を経て 2023 年 10 月より現職。専門は実験経済学、メタサイエンス。これまで住んだロサンゼルス、ミュンヘンではフルマラソンを完走。次は大阪…と思っていたものの、最近はおっぱらトレッキングに心惹かれています。

司会者プロフィール



室岡 健志 Takeshi Murooka

大阪大学社会経済研究所 教授、同研究所行動経済学研究センター センター長

プロフィール：新潟県出身。筑波大学社会学類卒業。米国カリフォルニア大学バークレー校経済学部博士課程修了。博士号（経済学）。独ミュンヘン大学 Assistant Professor、大阪大学大学院国際公共政策研究科講師および准教授等を経て 2024 年より現職。2025 年 4 月から行動経済学研究センター長を務める。専門は、行動経済学、産業組織論（企業の経済学）、ミクロ経済学。著書に『行動経済学』（日本評論社、2023 年）。最近はじめたことは自転車通勤です。現在は電動自転車を片道 30 分以上かけて漕いでいますが、時間短縮と運動を兼ねてスポーツサイクルを買うべきか考えています。